

令和元年度 後期アンケートより

- 1 「先生はわかりやすい授業に努めている」は、生徒の割合が向上しましたが、保護者の割合は減少しました。今年度の取組が十分に保護者に届かなかった結果だと考えられます。そこで、今後はより保護者へも成果が伝わるように、子どもの変容をさらに顕著なものにしていく努力をしていきます。そのため、ICTを効果的に活用したり、主体的に考えられる機会を取り入れ、全員が考え、深める授業へと工夫を重ねます。
- 2 「どの先生も同じ方針で生徒指導ができています」は、低い評価でした。教師間の連携や相談による歩調が合わせられなかったからではないかと考えています。一枚岩で教育に当たっていけるよう、今回の結果を真摯に受け止め校内の指導に足並みをそろえていきます。
- 3 「地域や保護者との関わり」については、保護者の回答が前期から向上しました。個々への対応では、良好な関係であると考えられます。ただし、学校全体としては、上述の通り、うまく情報が伝わっていないため、不信感が感じられたのだと考えます。やはり、職員間の連携と情報の共有化を最大の課題として、改善に努めていきます。
- 4 「家庭学習」については、前期に比べて少し向上しましたが、数値的には、まだ、課題があると思われれます。家庭学習の充実に向けて、主体的に学びたくなる授業の創造をめざしていきます。
- 5 「家族で PC やスマートフォンの使い方・ルールを決めている」と「家庭で SNS など使用状況を把握し、時間を守って正しく利用している」について、意識付けが定着してきたと考えられます。学校や保護者からの度重なる呼びかけが、功を奏したのだと考えられます。また、その働きかけにより、使い方を誤ると大変なことになるなど、SNS への確かな認識につながっていったものと推察します。

具体的方策

- ・<授業改善>新学習指導要領で求められている「めざす授業づくり」が、本校の目標となっています。自ら考え、深めていきたくなる授業を創造していくことに専念していきます。また、家庭での子どもの様子からも気づいていただけるそんな変容にまで子どもの姿を高めるよう努力します。
- ・<教育活動の広報>学校の取組を様々な形で広報し、学校の取組の周知を目指します。
- ・<校内態勢の見直し>校内の組織をしっかりと点検し、情報の共有化、一枚岩での教育が推進できるよう改善を図ります。
- ・<教師力の向上に向けた研修>保護者や子どもたちの声や様子に耳を傾けるとともに、あらゆる機会を利用して自立した社会人へと導いていきます。